

Next YOKOHAMA

第391回 横浜定期演奏会

「1番」に込められた青春の叫び
— 大注目の亀井聖矢とカーチュンとの共演 —

2023年10月21日(土) 17:00 横浜みなとみらいホール

指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ピアノ: 亀井聖矢

ショパン: ピアノ協奏曲第1番 小短調 op.11

ブラームス: 交響曲第1番 ハ短調 op.68

© Angèle Krüger



カーチュン・ウォン



亀井聖矢

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席はS席以外から選べます。 ※ 障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。

第九 特別演奏会 2023

指揮 広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]

◆ 12月16日 日 17:00 横浜みなとみらいホール
[第393回横浜定期演奏会]

◆ 12月17日 月 14:00 サントリーホール

ソプラノ: 竹下みづ穂 アルト: 但馬由香

テノール: 工藤和真 バリトン: 池内響

合唱: 東京音楽大学 (12/16)

日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/17)

ケルビーニ: 歌劇《アナクレオン》序曲

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

チケット料金 (全席指定・消費税込)

S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥7,000 C ¥6,000

Ys (25歳以下) ¥3,500

Gs (65歳以上) ¥6,000 (12/16 除く)

一般発売日: 2023年9月15日(金)

【日本フィル・サービスセンター】

☎ 03-5378-5911 (平日 10時~17時)

日本フィル e チケット ▶ <https://eticket.japanphil.or.jp>

指揮 小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

◆ 12月21日 木 19:00 横浜みなとみらいホール

◆ 12月22日 金 19:00 サントリーホール

◆ 12月25日 月 19:00 東京芸術劇場

◆ 12月26日 火 19:00 東京芸術劇場

◆ 12月27日 水 19:00 東京芸術劇場

オルガン: 石丸由佳

ソプラノ: 小川葉奈 (12/21-25)、市原 愛 (12/26, 27)

アルト: 山下牧子

テノール: 錦織 健 (12/21-25)、笛田博昭 (12/26, 27)

バリトン: 大沼 徹 (12/21, 25)、青戸 知 (12/22、

青山 貴 (12/26, 27)

合唱: 東京音楽大学 (12/21, 22)、

武蔵野合唱団 (12/25)、

日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/26, 27)

J.S. バッハ: 高き天よりわれは来たれ

主よ、人の望みの喜びよ

トッカータとフーガ BWV565

ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》



日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第390回

横浜定期演奏会

390th YOKOHAMA Subscription Concert

日本フィルハーモニー協会合唱団 創立50周年記念公演

2023年9月9日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm September 9th (Sat.), 2023, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、TBS

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —



2023-24 シーズン開幕のご挨拶

コロナ後の新しい世界を迎えようとしている、このシーズン。なんといっても注目は新首席指揮者に就任したカーチュン・ウォンがどのような音楽づくりをするかです。アレクサンドル・ラザレフ、ピエタリ・インキネンのもと培ってきた日本フィルの音楽的基盤にどのような化学変化を起すのか、興味が膨みます。

カーチュン×日本フィルのひとつ目の柱となるのはマーラーです。2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝し、彼の人生を大きく変えたという第3番を10月の首席指揮者就任披露演奏会に。そして2024年5月には、マーラー最晩年の傑作であり、難曲といわれる第9番の深淵な世界に挑みます。東京定期演奏会にもぜひ足をお運びいただければ幸いです。ふたつ目の柱はアジアの音楽です。アレクサンドル・ラザレフに替わりカーチュンが登場する11月の横浜定期では「管弦楽のための木挽歌」、1月には伊福部昭を取り上げます。カーチュン特有の切れ味のいいリズムで、またスタンダードな名曲もダイナミックな演奏でお楽しみいただけるに違いありません。

シーズンスタートは日本フィルハーモニー協会合唱団創立50周年記念公演です。コロナ禍で思うように活動できない時期を乗り越え、またこうして大人数で共演できることを嬉しく思います。他にも日本の音楽界を牽引する指揮者たち、そして注目のソリストが登場する心踊るシーズンとなること疑いありません。存分にお楽しみ下さい。

知れば知るほど面白い奥深いクラシック音楽の世界を「生演奏」でご堪能いただくと共にYouTubeチャンネル「5分でわかる大人のためのオーケストラ入門」、「メンバーズ TVU チャンネルによるライブ・アーカイブ配信」、毎週水曜日午後10時53分からのBS朝日「Welcome クラシック」もトライし、楽しみを倍加させてみてはいかがでしょうか。「温かさ」と「人に寄り添う」を楽団の特徴としている日本フィル。これからも皆様と演奏を通して、また音を通して「心の交流」を心掛けてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事長 平井俊邦



← YouTube チャンネル
【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ



感染予防の
ご案内

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。
ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

お客様へのお願い ●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

〈ドイツ〉への想い —日本フィル協会合唱団 50 周年を記念して

ブラームスの「ドイツ・レクイエム」は、作曲家自身が選んだ旧約聖書と新約聖書のドイツ語句を歌詞とする独特な立脚点を持った声楽作品です。あえて宗教的教義や逸話の要素を避けて、より普遍的かつ今を生きる人々に寄り添った内容となっています。ブラームス独特の温かみと深みに充たされたサウンドと共に、時代を越えて人々に愛され続けています。今回は日本フィルハーモニー協会合唱団創立50周年を記念し、この名作を取り上げます。指揮にはオペラの分野で目覚ましい功績を築いている園田隆一郎を迎え、ソリストにも砂川涼子と平野和という現代日本の声楽界を担うトップ・アーティストが共演します。

Programs

ブラームス：

ドイツ・レクイエム op.45 (約75分)

Johannes BRAHMS: Ein deutsches Requiem, op.45

休憩はございません。予めご了承ください。

指揮：園田隆一郎 Conductor: SONODA Ryuichiro

ソプラノ：砂川涼子 Soprano: SUNAKAWA Ryoko

バリトン：平野 和 Baritone: HIRANO Yasushi

合唱：日本フィルハーモニー協会合唱団

Chorus: Japan Philharmonic Association Choir

コンサートマスター：扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

指揮：園田隆一郎

ボローニャ歌劇場、トリエステ歌劇場などを指揮し、国際的な活動を展開する気鋭の指揮者。オペラ、シンフォニーの両分野で活躍する指揮者の一人である。

2006年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間《トスカ》を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団《ラ・ボエーム》を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル《ランスへの旅》の他、フィレンツェのトスカ・ナ管弦楽団との演奏会、カタニアのベッリーニ大劇場管弦楽団の演奏会を指揮した。その後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ねている。

2021年は、日生劇場《ラ・ボエーム》、びわ湖ホール《つばめ》などの公演に出演、いずれも絶賛を博す。2022年は、藤沢市民オペラ《ナブッコ》をはじめ、大阪交響楽団名曲コンサート、びわ湖ホール《ファルスタッフ》、大阪国際フェスティバル《泥棒かささぎ》、藤沢市民オペラ《ラ・ボエーム》、北海道二期会《皇帝テイトの慈悲》、東京文化会館《ショパン》などに出演。2023年は、NHKナゴヤニューイヤーコンサート、日生劇場開場60周年記念公演ケルビーニ《メデア》(日本初演)、三河市民オペラ ジョルダノ《アンドレア・シェニエ》をはじめ、新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023《魔笛》、藤沢市民オペラ 50周年記念ロッシーニ《オテッロ》などのオペラ公演およびオーケストラ公演に出演を予定している。

遠藤雅古、佐藤功太郎、ジェイムズ・ロックハート、ジャンルイジ・ジェルメッティ、アルベルト・ゼッダの各氏に師事。2005年第16回五島記念文化賞オペラ新人賞、2017年度第16回齋藤秀雄メモリアル基金賞、令和4年度第73回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。パシフィックフィルハーモニア東京 指揮者。

© Fabio Parenzan



© Yoshinobu Fukaya



ソプラノ：砂川涼子

可憐な舞台姿と聴くものの心を震わせる歌声で高い人気を誇るソプラノ歌手。

日伊声楽コンクール優勝、日本音楽コンクール第1位、五島記念文化賞・オペラ新人賞、リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでのザンドナイ賞受賞等、数々の受賞歴を誇る。

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。江副育英会オペラ奨学生、五島記念文化財団奨学生としてイタリアでも研鑽を積む。新国立劇場《オルフェオとエウリディーチェ》タイトルロールでオペラデビュー。その後も数々の公演に出演。近年ではバルセロナ響《トゥーランドット》、日生劇場《トスカ》、びわ湖ホール《神々の黄昏》、新国立劇場《カルメン》、《愛の妙薬》、《魔笛》、兵庫県立芸術文化センター《ラ・ボエーム》、東京フィル《ファルスタッフ》、日本オペラ協会《夕鶴》等に出演。

また、国内各地のオーケストラからも招かれており、リサイタル、テレビ、ラジオへの出演も数多い。NHK ニューイヤーオペラコンサートには、初登場以来出演を重ねている。藤原歌劇団団員。沖縄県宮古島出身。

© 武藤章



バリトン：平野 和

今、活躍が最も注目されるバス・バリトンのひとり。

日本大学芸術学部、ウィーン国立音楽大学修士課程を首席で修了。末芳枝、R. ハンスマン、R. ホルの各氏に師事。2023年デビュー15周年を迎えた。

グラーツ歌劇場、ウィーン・フォルクスオーパーの専属歌手として精力的な活動を経てウィーンを拠点に活躍している。ウィーン楽友協会、ベルリンフィルハーモニーなどで佐渡裕、N. アーノンクールら数々の著名指揮者の下ソリストを務めている。ブレッケンツ音楽祭の湖上オペラ《トゥーランドット》《カルメン》、日本では兵庫県立芸術文化センター《ラ・ボエーム》《ドン・ジョヴァンニ》など出演多数。

2022/2023シーズンはフォルクスオーパー《イオランタ》《魔笛》、日本でもデビュー15周年を記念したリサイタルを開催のほか、オペラ、オーケストラのソリストなど多数公演に出演を予定している。

Twitter @YasushiHirano



今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの
面白解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪

小宮正安 (こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学 (大学院都市イノベーション学府・都市科学部) 教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト(悪妻)伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』(山川出版社)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男 ケッヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書) など多数。『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。



合唱：日本フィルハーモニー協会合唱団

合唱活動を通じて日本フィルハーモニー交響楽団と共同し、市民によるオーケストラ活動の推進を目的として1973年に創立された。メンバーは様々な年齢、職業の日本フィルハーモニー協会員によって構成され、オーケストラ付き合唱曲を中心に日本フィルハーモニー交響楽団と数多く共演している。2019年5月には東京定期演奏会に於いて、アレクサンドル・ラザレフ氏の指揮でマスカーニ《カヴァレリア・ルスティカーナ》に出演し好評を博した。2022年9月にヘンデル「メサイア」（大井剛史指揮）に出演。現在、浅井隆仁、高橋淳、山口浩史が合唱指導を行なっている。



【ソプラノ】	赤星 紀子	新野 恵	石垣あずみ	石倉 幸恵	石橋 敏江
大井真砂代	垣内 法子	金田 雅子	神崎ゆかり	熊倉 淳子	小林 玲子
佐々木桐絵	白田 敬子	菅原 節子	鈴木 美穂	角谷みさ子	高橋 治子
高柳 和子	伊達 佳子	辻村 裕子	永山 温子	松本まゆ美	水弘 弘美
森 薫	安田 朋子	柳沢志穂子			
【アルト】	荒 志保	荒井ゆり子	池上 和子	石崎 敦子	石元 智子
上原 好美	植松 伸子	榎本 裕子	大牟田直子	大村みさる	荻野ひろみ
小幡 京子	柿沢 弘子	加藤 桂子	金田 典子	川端 益恵	腰川 美子
小林 輝子	斎藤 洋子	坂本 洋子	四方堂欣美	清水 理恵	田村 晶子
都筑まつ子	坪井 七美	寺崎美知子	内藤 夕子	成山しのぶ	濱野美保子
平瀬 典子	廣瀬さと子	福島 靖子	細田美登利	御厨 容子	宗像 雅子
柳澤 敏子	矢野ふじね	山崎 郁子	吉田まどか		
【テノール】	石井 信隆	磯野 正彦	榎本 博康	大坂 純史	大谷 淳
佐藤 信允	武内 智夫	田中 勝	徳光 一博	山本 紀一	
【バス】	五十嵐康之	池上 健	石橋 賢二	宇野 節生	岡田 康
岡村 浩	荻原 達雄	坂野 靖弘	佐藤 典夫	澤昌 篤	三本杉国親
紫合 治	杉山 治彦	高橋実貴雄	千田 晴久	村上 龍郎	

創立50周年おめでとうございます。1973年創立以来、日本フィルをあらゆる面で支えていただいていますことに感謝の気持ちでいっぱいです。

互いに信頼し、尊敬し合いながら、どんな時にも音楽の喜びを分かち合い、助け合いながら一つ一つの演奏を積み上げてきました。それが日本フィルと協会合唱団の音楽です。

60年70年と、これからも日本フィルと共に多くの方に音楽のすばらしさを届け、日本フィルの歴史を創ってまいりましょう。

日本フィルハーモニー交響楽団 一同

ドイツ・レクイエム ～あるいはあらゆる価値の転換～

小宮正安（こみや・まさやす）

正確には「ドイツ語のレクイエム」という意味だ。本日演奏される《ドイツ・レクイエム》のこと。

「レクイエム」とは教会で行われる葬送のミサ、あるいはそこから発生した音楽を指すが、いずれにせよ式文はラテン語で書かれている。古来西ヨーロッパでは、キリスト教といえばカトリックだった。そしてカトリックの公用語といえば、フランスだろうがドイツだろうがラテン語と決まっていた。

となれば、かなりの冒険ではないか。レクイエムを、あえてドイツ語にするのは。しかも《ドイツ・レクイエム》の場合、単なる「レクイエム」のドイツ語訳ではない。ヨハネス・ブラームス（1833-1897）によって、聖書から自由にテキストが選ばれているのだから、なおさらだ。

背景としては、1517年に起きた宗教改革にまで遡る。改革の中心人物はマルティン・ルター。ドイツ出身のカトリック神学者で、教会内部の改革運動を起こしたものの、上層部の怒りを買って破門される。結果彼は改革派の教会を旗揚げし、これがカトリックに抵抗（プロテスト）する「プロテスタント」教派の一つとなった。

この時ルターが強調したのが、神と人間との関係だった。善行を成したとか、教会への寄進が多かったとかいう理由で、人間は救われるのではない。自ら信仰を持ち、神と向き合うことによってこそ、救いの可能性は生まれるのだ。

ではそういった信仰は、どうやって育まれるのだろう。それは、神の言葉である聖書に親しむことにつくる。だからルターは、ラテン語が主流だった聖書を、ドイツの人間誰にでも分かるドイツ語に翻訳した。伝統的な宗教観の、新たな転換に他ならない。

このような流れの中で、自身熱心なプロテスタントであったブラームスも、あえて「レクイエム」と銘打ちながら、ルター訳のドイツ語聖書から、自らの信仰に基づき、自らの意思でテキストを選び取った。しかもテキストといい、曲想といい、ここでも伝統的なレクイエムにまつわるイメージからの転換が試みられている。

例えば、第1楽章冒頭のテキストを見てみよう。「幸せである 苦しみを背負う者こそは」。この言葉は、イエスが初めて行ったとされる説教の一節だ。

イエスの時代、ユダヤはローマ帝国の支配下にあった。しかもユダヤ教においては、教義を厳しく守ることこそ神の意志に叶うと主張する一派が、絶大な力を誇っていた。ところがイエスは、自身ユダヤ教徒であったものの、戒律厳守や国家設立とは異なる問題、つまり神の愛の前に人間はいかに生きうるか、というメッセージを説いたのである。

そうした背景があつての説教だ。人間の抱える苦しみを巡って、通常の価値観を引っ繰り返すような言葉が語られた。そしてブラームス自身、通常の「レクイエム」のごとき沈鬱な短調ではなく、「慰め」を表すへ長調を用い、人間的な尺度では推し量れぬ神の祝福（「幸いである selig」は、この楽章のみならず全曲のキーワードであり、元々は「至福」を意味する単語だ）を表現した。

また《ドイツ・レクイエム》では、旧来のレクイエムの山場である「怒りの日」=罪人が神の裁きにあう地獄絵図が、まったく登場しない。対照的に、生=永遠の存在（神）と死=儚き存在との壮絶な戦いが描かれ、最後は生の死に対する勝利=生の絶対的肯定へと至る。

こういった具合に、《ドイツ・レクイエム》では様々な価値転換が目指されているのだが、それも道理。実のところこの曲は、ブラームスが20歳～30歳代にかけて構想・作曲した、いわば新進気鋭の作品なのだ。だから、この曲がウィーンで部分的に初演された時には、一部から猛烈に批判された。演奏する側にも問題があったのだが、それにもまして音楽や曲の目指す方向性自体が斬新過ぎたのだらう。

作品は1866年に一先ず完成。1867年にウィーンでの部分初演（第1楽章～第3楽章）を経て、1868年にブレーメンで6楽章の形で全曲初演された。その後第5楽章が付け加えられ、1869年にライプツィヒで全7楽章の形で初演されている。

以下、対訳と照らし合わせながら、各楽章の特徴を挙げてゆこう。

第1楽章：華やかな響きのヴァイオリンやトランペットが用いられていないのが特徴。

第1段目のテキストとは趣を変えて第2段目が歌われた後、再び第1段目が戻り（これを「三部形式」といい、ほぼ全ての楽章に当てはまる）、最後は救済を表すかのようなハープの上昇音で終わる。なおブラームスがハープを用いた例は、かなり珍しい。

第2楽章：第1段目では、葬送行進曲を思わせるティンパニの執拗なリズムに乗って、人間の儚さが変り短調で歌われる。第2段目では、儚さを永遠に変える存在=神の到来へのほのかな希望が垣間見えるものの、再び第1段目（対訳では第3段目）の沈鬱な音楽が戻る。

ところが「だが主の言葉は残るのだ 永遠に」の歌詞とともに音楽は長調に転じ、第4段目では教会音楽の伝統であるフーガ（特にブラームスはヨハン・セバスティアン・バッハのフーガを手本とした）に乗って、永遠の存在を信じた者の勝利が描かれる。

第3楽章：バリトン独唱が、死を免れえない人間の現実と不安（第2楽章における「人間の儚さ」をさらに突き詰めたもの）を二短調（葬送を表す調）で歌い、それに合唱が続く。「私は あなただけに希望を寄せます」が長調で歌われると曲は勢いを

増し、第2段目の歌詞が二長調（凱旋を表す調）で出現する。希望の大伽藍を築くがごときフーガで。

第4楽章：天国への憧れ、神による慰めへの希求を描いた三部形式の曲。中間部をなす「私の魂は求め 憧れます」ではフーガになり、天へ届けとばかりに歌声が積み重なってゆく。

第5楽章：1865年に亡くなった母親の墓に詣でたときに着想されたと言われ、全曲中最後に完成された楽章。「あなたがたは今 悲しんでいる」という言葉は、聖書では十字架での死を控えたイエスの口から発せられるが、この楽章では男声ではなくソプラノ独唱に拠っている点が重要だ。天から聴こえてくる母の声をイメージさせ、それは第2段目の「母がその子を慰めるように」の合唱と呼び交わす。

第6楽章：バリトン独唱が再登場し、第2・3楽章の雰囲気に戻ってくるものの、第2段目の「終末のラッパが響く瞬間に」とともにトロンボーンが響き渡り、生と死の壮絶な戦いが始まる。「死よ どこにあるのだ」の「どこに wo?」という問いかけが合唱によって幾度も叫ばれる中、ついに生=神の永遠性は勝利し、第3段目の輝かしいフーガが始まる。

第7楽章：プロローグである第1楽章に対する、エピローグとしての楽章。第1楽章のキーワードである「幸せである selig」が再び歌われるが、第1楽章では用いられなかったヴァイオリンも参加し、神の手の中に死ぬ=新たな命に生きることへの確信が表現される。やがて第1楽章の曲想が戻り、「幸せである」が祝福のように繰り返され、消えてゆく。

こうして個々の楽章を検討した後、全体を眺めると、実に対称的な構成になっていることが分かる。A:プロローグ（第1楽章）→B:人間の儚さと神への希望（第2・3楽章）→C:神による慰めへの希望（第4楽章）→C':神による慰め（第5楽章）→B':人間の儚さと神の勝利（第6楽章）→A':エピローグ（第7楽章）、という具合だ。

しかも下線を引いた楽章のテキストには、イエスをはじめ、預言者や天使の言葉=神による直接的なメッセージが用いられている。前半部で提示された人間の様々な思いに後半部では神が応える、つまり儚き存在の苦しみは永遠の存在によって昇華されるのだ。

元々「レクイエム」とは、「安息」という意味のラテン語だった。そしてそれは伝統的に、死者の安息を意味してきた。だが《ドイツ・レクイエム》において「安息」とは、生きとし生ける者への安息への祈り、つまり生者をも含めた人間存在そのもののレクイエムへと変えられた。あらゆる価値の転換への希望と確信が、この作品には脈打っている。

楽器編成 ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ1、ハープ1、パイプオルガン1、弦楽5部。

I

Selig sind, die da Leid tragen,
denn sie sollen getröstet werden.
(Matth. 5,4.)

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.
(Psalm.126,5.)

Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen,
und kommen mit Freuden
und bringen ihre Garben.
(Psalm.126, 6.)

II

Denn alles Fleisch ist wie Gras
und alle Herrlichkeit des Menschen
wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
und die Blume abgefallen.
(I. Ptrus 1,24).

So seid nun geduldig, lieben Brüder,
bis auf die Zukunft des Herrn.
Siehe, ein Ackermann wartet
auf die köstliche Frucht der Erde
und ist geduldig darüber, bis er empfahe
den Morgenregen und Abendregen.
So seid geduldig.
(Jakobus 5,7)

Denn alles Fleisch es ist wie Gras
Und alle Herrlichkeit des Menschen
Wie des Grases Blumen.
Das Gras ist verdorret
Und die Blume abgefallen.
Aber des Herrn Wort bleibt in Ewigkeit.
(I.Petri 1,24,25.)

Die Erlöseten des Herrn
werden wieder kommen,
und gen Zion kommen mit Jauchzen;
ewige Freude wird über ihrem Haupte sein;
Freude und Wonne werden sie ergreifen
und Schmerz und Seufzen wird weg müssen.
(Jesaja 35,10.)

I. 合唱

幸せである 苦しみを背負うものこそは。
彼らは神の慰めを受けるのだ。
(マタイによる福音書：第5章 第4節)

涙を湛えて種をまいた者は
喜びに満ちて刈り入れを行う。
(詩篇：第126篇 第5節)

彼らは 泣きながら去ってゆく
高貴な種を携えて
そして 喜びながら戻ってくる
収穫の束を抱えて。
(詩篇：第126篇 第6節)

II. 合唱

いかなる肉体であれ それは草のようなもの
人がどんなに繁栄を誇ったところで
所詮は 草に咲く花と同じ。
草は枯れ
花は散る。
(ペトロの第1の手紙：第1章 第24節)

だから耐えてほしい 愛する兄弟たちよ
主が来られるときまで。
例えば まるで農夫のように
大地のもたらす尊い実りを待ち
朝と夕に雨が降るまで
耐えてゆく。
そう 耐えてほしい
(ヤコブの手紙：第5章 第7節)

いかなる肉体であれ それは草のようなもの
人がどんなに繁栄を誇ったところで
所詮は 草に咲く花と同じ。
草は枯れ
花は散る。
だが主の言葉は残るのだ 永遠に。
(ペトロの第1の手紙：第1章 第24、25節)
主によって解放たれた者は 再び帰ってくる
歓喜の声を上げて 聖なる山へと。
喜びが 永遠の喜びが
彼らの上に注がれる。
喜びと無上の幸福を 彼らは得
悲しみと嘆息は 必ず消え去る。
(イザヤ書：第35章 第10節)

III

Herr, lehre doch mich,
daß ein Ende mit mir haben muß,
und mein Leben ein Ziel hat,
und ich davon muß.
Siehe, meine Tage sind einer Hand
breit vor dir,
und mein Leben ist wie nichts vor dir.
Ach wie gar nichts sind alle Menschen,
die doch so sicher leben.
Sie gehen daher wie ein Schemen,
und machen ihnen viel vergebliche Unruhe;
sie sammeln und wissen nicht
wer es kriegen wird.
Nun Herr, wess soll ich mich trösten?
Ich hoffe auf dich.
(Psalm.39, 5.6.7.8.)

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand
und keine Qual rühret sie an. Weish.
(Weisheit Salomons. 3,1.)

IV

Wie lieblich sind deine Wohnungen,
Herr Zebaoth!
Meine Seele verlangt und sehnet sich
nach den Vorhöfen des Herrn;
mein Leib und Seele freuen sich
in dem lebendigen Gott.
(Psalm 84,2.3)

Wohl denen, die in deinem Hause wohnen,
die loben dich immerdar.
(Psalm.84,5.)

V

Ihr habt nun Traurigkeit;
aber ich will euch wieder sehen
und euer Herz soll sich
freuen und eure Freude soll niemand
von euch nehmen.
(Johannes 16,22.)

Ich will euch trösten,
wie Einen seine Mutter tröstet.
(Jasaja 66.13)

III. バリトン独唱 合唱

主よ どうか教えてください
私には終わりが来ることを
私の人生には限りがあり
それに別れを告げなければならないことを。
そうです 私の日々は
あなたの前では掌ほどの狭さ
私の人生など あなたの前では空しいのです。
何と人間は空しいのでしょうか
たとえ何の心配もなく人生を送ったところで。
どんなに動いても 所詮は幻のよう
彼らを駆り立てるのは 空しい不安だけ。
集めるだけ集めても 結局は分からない
それを最後に手にするのは 誰か。
だから主よ 何に拠れば慰めを得られますか？
私は あなただけに希望を寄せます。
(詩篇：第39編 第5～8節)

正しい者の魂は 神の御手の中にあり
苦しみが彼らを襲うことはない。
(旧約続編：ソロモンの知恵：第3章 第1節)

IV. 合唱

なんと愛しいのでしょうか あなたの住まいは
全てを司る主よ！
私の魂は求め 憧れます
あなたの家の門を。
私の肉体と魂は 喜びを得ます
生ける神のもとにあってこそ。
(詩篇：第84節 第2、3節)

幸せです あなたの家に住み
あなたをいつも讃える人々は。
(詩篇：第84編 第5節)

V. ソプラノ独唱 合唱

あなたがたは今悲しんでいる。
だが私はあなたたちに再会するだろう
その時あなたたちの心は喜びに満ちる
誰も奪うことのできない
喜びに。
(ヨハネによる福音書：第16章 第22節)

私はあなたがたを慰めよう
母がその子を慰めるように。
(イザヤ書：第66章 第13節)

Sehet mich an:
Ich habe eine kleine Zeit
Mühe und Arbeit gehabt
und habe großen Trost funden.
(Jesus Sirach 51,27.)

VI
Denn wir haben hie keine bleibende Statt,
sondern die zukünftige suchen wir.
(Hebräer. 13,14.)

Siehe, ich sage euch ein Geheimnis:
Wir werden nicht alle entschlafen,
wir werden aber alle verwandelt werden;
und dasselbige plötzlich, in einem Augenblick,
zu der Zeit der letzten Posaune.
Denn es wird die Posaune schallen,
und die Toten werden auferstehen unverweslich,
und wir werden verwandelt werden.
Dann wird erfüllet werden
das Wort, das geschrieben steht:
Der Tod ist verschlungen in den Sieg.
Tod, wo ist dein Stachel?
Hölle, wo ist dein Sieg?
(I. Korinther 15, 51-55.)

Herr, du bist würdig zu nehmen
Preis und Ehre und Kraft,
denn du hast alle Dinge geschaffen,
und durch deinen Willen haben sie das Wesen
und sind geschaffen.
(Offenbarung Johannes 4,11.)

VII
Selig sind die Toten,
die in dem Herrn sterben,
von nun an.
Ja der Geist spricht,
daß sie ruhen von ihrer Arbeit;
denn ihre Werke folgen ihnen nach.
(Offenbarung Johannees 14,13.)

私を見てほしい。
私はしばらくの間
この世で勞し
そして今や 大きな慰めを見出した。
(旧約続編：シラ書：第 51 章 第 27 節)

VI. バリトン独唱 合唱
私たちにとって この世に永遠の都などない
私たちが求めているのは 来るべき都だ。
(ヘブライ人への手紙：第 13 章 第 14 節)

さあ あなた方に奥義を告げよう。
私たちは皆 空しく眠り続けるのではない
私たちは皆 変えられるのだ。
それは突然に 一瞬のうちに起こる
終末のラッパが響く瞬間に。
終末のラッパが響き
死者は 朽ちない者となって蘇り
私たちは皆 変えられる。
その時 成就するのだ
聖書に記された言葉が。
死は呑み込まれてしまった 勝利の渦へと。
死よ どこにあるのだ お前の棘は！
地獄よ どこにあるのだ お前の勝ち目は！
(コリントの信徒への手紙 1: 第 15 章 第 51 ~ 55 節)

主よ あなたこそ相応しい方
賛美と栄光と力をお受け下さい
あなたが全てを創造され
あなたの意思により全ては存在し
造られたのですから。
(ヨハネの黙示録：第 4 章 第 11 節)

VII. 合唱
幸せである
主の御手の中で死ぬ者こそは
この瞬間から…。
そうだ 聖霊はこう語っている
死者たちは憩いを得るのだ 勞から解き放たれて。
彼らの行いが 彼らとともに随いてゆくのだから。
(ヨハネの黙示録：第 14 章 第 13 節)



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



『ドイツ・レクイエム』の政治性!?

プログラム・ノートでは、ドイツにおけるプロテスタントの姿勢、またその影響の下で『ドイツ・レクイエム』を作曲したブラームスの話をした。ただし「ドイツ語のレクイエム」、さらにいえば「ドイツ語で書かれたテキストを基としたレクイエム」を作るという行為自体、ブラームスにとっては自身の信仰にとどまらない、よりリアルタイムな状況を受けてのものだったのではないか。というも、それまで大中小の国々に分裂していたドイツにお



初代ドイツ皇帝に即位したヴィルヘルム1世帝国の戴冠式(1871年) ヴェルナー画 1885年

いて、統一への動きが高まっていたまさにその時代に、彼は当作品を書いているからだ。

それまでバラバラの地域が並び立っていたドイツの一带に、統一国家を作るという新たな挑戦…、それは様々な意味で困難の連続だった。しかもたとえ統一ドイツが生まれたところで、そこに集う人々が「自分は〈ドイツ人〉だ」と思えるようになってもらうためには、どうすればよいか?そこでとられたのが、彼らがそうした意識を持てるような文化的土壌を作ること。結果、この地域の共通言語である「ドイツ語」と、多くの人々の心を揺さぶる「音楽」とが、有効な手段として用いられることとなる。

そうした中で、聖書の本格的なドイツ語訳と刊行をおこなったルターは、「ドイツ語の父」のように崇められてゆく。また、17世紀から18世紀にかけて活躍したシュッツやバッハ等、ルターの訳した聖書に基づき、葬送音楽や人間の死生観を如実に反映した音楽作品を書いた人々は、ドイツ音楽の絶対的な恩人のごとく崇められてゆく。となるとブラームスにとって『ドイツ・レクイエム』をあらためて作することは、当人が意識するにせよせざるにせよ、政治的な色合いを帯びることとなった。

様々なすったもんだの末、ドイツが統一国家(ドイツ帝国)として産声をあげたのは1871年のこと。様々な毀誉褒貶や試行錯誤の末、ブラームスが自身の『ドイツ・レクイエム』を現在聴かれるような形にようやくまとめあげた、3年後の出来事だった。

■11月横浜定期演奏会及び芸劇シリーズ、12月東京定期演奏会 内容決定のお知らせ

6月30日に発表いたしました通り、11月及び12月に来日を予定しておりました桂冠指揮者兼芸術顧問のアレクサンドル・ラザレフ氏については、現地の状況が一定の落ち着きを取り戻すまでは、出演を見送らざるを得ないという結論に至りました。

以下の通り内容を変更して公演を開催いたします。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

第392回 横浜定期演奏会

2023年11月25日(土) 17:00
横浜みなとみらいホール

第248回 芸劇シリーズ

2023年11月26日(日) 14:00
東京芸術劇場

指揮:カーチュン・ウォン〔首席指揮者〕
ピアノ:福岡光太郎

小山清茂:管弦楽のための木挽歌
プロコフィエフ:ピアノ協奏曲第3番
チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》

第756回 東京定期演奏会

2023年12月8日(金) 19:00
2023年12月9日(土) 14:00
サントリーホール

指揮:カーチュン・ウォン〔首席指揮者〕
マリンバ:池上英樹

外山雄三:交響詩《まつら》
伊福部昭:オーケストラとマリンバのための
《ラウダ・コンチェルタータ》
ショスタコーヴィッチ:交響曲第5番

■新入団のお知らせ

2023年8月20日にヴィオラ・セクションに江藤史織が入団いたしました。今後の活躍にご期待ください。

■3月横浜定期演奏会 出演者変更のお知らせ

アシスタント・コンサートマスターの千葉清加は、都合により2023年冬から2024年初夏まで、演奏活動を休止することとなりました。つきましては、2024年3月30日(土)第395回横浜定期演奏会のソリストが変更となります。

モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》のソロは神尾真由子氏をお迎えいたします。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX・メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

●公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただけます様ご協力をお願いいたします。●ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

7月の寄付者 匿名4名

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター
〒166-0011
東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時~17時)
FAX: 03-5378-6161 (24時間)
e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールディダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」
中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊曉雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ

- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター

扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋

アシスタント・
コンサートマスター
千葉清加

第1ヴァイオリン

伊藤太郎
太田麻衣
九鬼明子

齋藤政和
榊 渚
竹歳夏鈴

谷崎大起
田村昭博
中谷郁子

西村優子
平井幸子
本田純一

□松川葉月

第2ヴァイオリン

遠藤直子
大貫聖子
岡田紗弓

加藤佑一
○神尾あずさ
川口 貴

佐藤駿一郎
末廣紗弓
豊田早織

町田 匡
山田千秋
ヴィオラ

☆安達真理

□江藤史織
小俣由佳
小中澤基道

児仁井かおり
高橋智史
中川裕美子

中溝とも子
松澤雅奈

ソロ・チェロ

菊地知也
門脇大樹

チェロ
石崎美雨
伊堂寺 聡

江原 望
大澤哲弥
久保公人

山田智樹
コントラバス
鈴木優介

○高山智仁
成澤美紀
○宮坂典幸

森田麻友美
山口雅之
フルート

齋藤光晴
難波 薫
○真鍋恵子

オーボエ
佐竹真登
○杉原由希子

○松岡裕雅
クラリネット
○伊藤寛隆

○楠木 慶
照沼夢輝
堂面宏起

ファゴット
大内秀介
○鈴木一志

○田吉佑久子
中川日出鷹
ホルン

伊藤 舜
宇田紀夫
○信末碩才

原川翔太郎
☆丸山 勉
村中美菜

ソロ・トランペット

オッタビアーノ・
クリスト・フォリ

トランペット
大銅伸紀
◎大西敏幸

中里州宏
中務朋子
星野 究

トロンボーン
◎伊藤雄太
□笠間勇登

バス・トロンボーン
中根幹太
チューバ

柳生和大
ティンパニ
◎エリック・パケラ

パーカッション
大河原 渉
ハーブ

松井久子
楽団長
中根幹太

チーフ・ステージ・マネージャー
阿部紋子
ステージスタッフ

森橋健太
長田大翔
チーフ・インスペクター

佐藤駿一郎
インスペクター
宇田紀夫

鈴木優介
ライブラリアン
鬼頭さやか

杉本哲也
◎首席奏者
◎副首席奏者

☆客演首席奏者
□試用期間

理事長(代表理事)

平井俊邦
副理事長(代表理事)
五味康昌

専務理事(代表理事)
福井英次
常務理事(代表理事)

後藤朋俊
常務理事(代表理事)
中根幹太

理事
石井啓一郎
遠藤 滋

佐々木経世
田村浩章
戸所邦弘

福本ともみ
監事
上條貞夫

福澤宏哉
評議員会会長
加藤丈夫

評議員
青井 浩
安孫子 正

荒藤康一郎
石塚邦雄
石村 等

稲垣 尚
内川清雄
大塚宣夫

海堀周造
梶浦卓一
河北博文

喜多崇介
木村恵司
久保田 隆

小林研一郎
島田精一
津田義久

西澤 豊
野間省伸
葉田順治

村上典吏子
山口多賀幸

名誉顧問

熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔

アドバイザリー・ボード
大島 剛
小野敏夫

小網忠明
後藤 茂
武田隆男

田邊 稔
溝口文雄
コミュニケーション・ディレクター

マイケル・スペンサー
マネジメント・スタッフ
浅見浩司

磯部一史
江原陽子
及川ひろか

小川紗智子
荻島里帆
賀澤美和

柏熊由紀子
小須田萌
佐々木文雄

澤田智夫
篠崎めぐみ
清水佑香子

杉山綾子
杉山まどか
高橋勇人

田中正彦
槌谷祐子
中村沙緒里

西田大輔
長谷川珠子
藤田千明

別府一樹
益満行裕
宗澤晶子

山岸淳子
吉岡浩子
シニア・パートナー

新井康久
伊波 睦
永島義郎

団友

青柳哲夫
青山 均
赤堀泰江

石井豊治
伊藤恒男
伊波 睦

遠藤 功
遠藤剛史
大石 修

大川内 弘
大味 修
寛 美知子

金本順子
蒲谷隆行
川口和宏

岸良開城
吉川利幸
木村正伸

小林俊夫
小山 清
斎藤千種

佐々木裕司
佐藤玲子
菅原 光

高木裕子
高木雄司
高木 洋

高倉理実
田沢 烈
立川和男

堂阪俊子
富樫尚生
豊田尚生

中川二朗
永田健一
中務幸彦

奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子

平賀法子
福島喜裕
松本克己

松本伸二
三武克郎
宮武良平

三好明子
森 茂
山下進三

山本淑子
山本辰夫
渡辺哲雄